

タイトル	北海道における中小企業家同友会の教育(13)
著者	竹田, 正直; TAKEDA, Masanao
引用	開発論集(107): 103-128
発行日	2021-03-17

北海道における中小企業家同友会の教育(13)

竹田 正直*

はじめに

新型コロナウイルス（COVID-19）の感染は、2020（令和2）年1月16日に日本でも感染者がでて、約1年間を経過したが、依然感染は続いている。

2019年12月8日は、中国当局による最初の発症が確認された日である。1年経った2020年12月8日の感染合計は、全世界で、67,618,431人（前日比+531,360人）、死者1,544,985人（前日比+8,730人）である。前号7月31日の数値から4ヵ月少しで3.9倍、1日の感染者が2倍、死者数2.3倍、死者の1日あたりは1.4倍であらゆる数値が拡大している。

日本の12月8日の感染者合計は165,142人、前日比+2,157人、死者合計2,304人、前日比+47人、北海道の感染者合計は、10,367人、前日比+204人、死者合計271人、前日比+9人である。北海道には新型コロナウイルス感染の第3波がおしよせていた。^(注1)

北海道の新型コロナウイルス感染症は、1月28日に初めての感染者（旅行者）が確認され、その後、全国より早く感染者数が増え続けた。そのため、2月28日には「新型コロナウイルス感染緊急事態宣言」が発表され、道内の全小中高校の臨時休校や不要不急の外出自粛などが求められた。

北海道同友会は、2020年2月25日に代表理事会をもち新型コロナの影響調査実施を決め、3月31日までに621件の回答で、「現時点で影響が出ている」「今後影響が出る可能性がある」の何らかの影響があると答えた企業は89%に上った。具体的にはすでに、展示会やイベントの中止・延期、来店者数の減少による売り上げ減少、予約キャンセルが現れていた。3月11日に「新型コロナウイルスに負けないで！」の文書を全会員へ配信し、①資金繰りの早期手当を、②休業への賃金助成、③相談は事務局へ、を呼びかけ、行政機関、金融機関、関係団体へ代表理事と事務局で訪問して協力を要請した。会員へは事務局の総力を上げて電話と訪問でヒアリングを行った。会員の声を受け、3月25、26日にウェブ会議システム「ZOOM」を導入して全道会員をつなぎ、北海道経済産業局や北海道労働局、北海道よろず支援拠点から専門家を招いて緊急説明会を開催した。また、『中小企業家しんぶん北海道版』のほかに、『コロナ対策NEWS』を毎週1回または2回発行してきた。^(注2)

第68期同友会大学も、1月20日に入学式を行い、第8講2月27日を終えて、4ヵ月ほど

*（たけだ まさなお）北海学園大学開発研究所特別研究員、（北海道大学名誉教授）

中断し、6月27日に第9講から再開した。11月17日で最終第30講を終了し、12月18日に卒業式を行った。講義は、いわゆる「三密」を避けるため、対面式と「ZOOM」によるオンラインを積極的に併用した。対面式では、従来の二人掛け机を一人掛けとし、消毒、マスク着用などの予防を徹底して実施した。「ZOOM」による講師と受講者の質疑も、オンライン受講者相互のグループ討議も実施することが出来た。「ZOOM」の設営に事務局は事前準備が大変であったが、講師としては、対面との併用なので殆どいつものように授業を進めることが出来た。今回も札幌市以外の遠方からの受講者が沢山おり、コロナ後についても遠隔教育の持つ積極面を活用できると感じた。

2020年の第68期同友会大学では、これまでになく国連のSDGsが取り上げられた。それは、2020年7月14日に開催された第52回中小企業家同友会全国協議会（略称：中同協）定時総会（ONLINE）で採択された方針の第1章第1節2（10）『「持続可能な開発目標」（SDGs）の学びの場を』において、同友会のめざす企業づくりの方向は、国連の2030年までの「持続可能な開発目標」（SDGs）と方向性が一致していることを明らかにした。また、全国研修会の分科会などで、学ぶ機会を設定し、さらに、「持続可能な社会に向けて—SDGsについて学ぶ欧州視察」（ベルギー、デンマーク、ドイツ）を行った。

北海道同友会は同友会大学同窓会と共催し、第68期同友会大学公開講座として、日本貿易振興機構アジア経済研究所新領域研究センター法・制度研究グループ長・山田美和氏の講演「SDGsと中小企業—企業の社会的責任を考える—」を、2020年10月15日、デ・アウネさっぽろ1階101号で開催した。これには、第68期受講生の殆どが参加した。

2020年11月12日（木）18-21時、デ・アウネさっぽろ13階、大久保記念・共育ホールで行った第68期同友会大学、単元VI、第29講、「教育の本質とは何か」の講義で筆者は、最後に「同友会のめざすものとSDGs」について講義を行い、その後、「職場でSDGsは何からはじめますか？」のテーマでグループ討議をお願いし、アンケートも行った。アンケートの回答では、「SDGsを知っている」は、94%と非常に高いが、「SDGsの本を読んだことがある」は35%、「SDGsを会社で討議した」は12%と、まだまだ関心が低い。

北海道同友会の会員企業でもSDGsに取り組み始めている。江別市にあるヨーロッパ車専門の整備と部品をあつかう企業、(株)北翔（代表取締役清水誓幸氏）である。江戸時代の近江商人の「売り手よし」「買い手よし」「世間よし」の三方よしに加えて、「未来よし」の四方よしで企業と社会の持続可能な発達をめざしている。

(株)エルコム（代表取締役社長 相馬督氏、札幌市北区）は、機械式立体駐車場の設計・製造・販売、駐車場パレットヒーティング工事、耐雪型コインパーキングの設計・製造・販売、遠赤外線融雪装置の製造・販売、ゴミ処理・圧縮装置の製造・販売、発泡スチロール減容機の製造・販売、発泡スチロールパレット燃料化装置の製造・販売、ペットボトル圧縮回収機の製造・販売、省力化機械の製造・販売を行っている。

(株)有我工業所（代表取締役社長 有我充人氏、空知郡上富良野町）は、地熱活用による環境

保全をめざし、他の再生可能エネルギーと比べてコスト性にも優れている地中熱を活用している。2020年に「空気調和・衛生工学会 第34回振興賞技術振興賞」受賞、など全国的にも評価されている。

(株)りんゆう観光(代表取締役社長 植田拓史氏)は、2015年から2016年まで、1年かけて新しい経営指針、「わたしたちは北海道に根ざし、自然・人・文化にふれあう『自然にロー・インパクト、心にハイ・インパクト』な企業活動を通じて世界中の人々の、人生のよろこびをひろげます」をつくり上げた。ここにSDGsの理念が見事に掲げられているが、さらに、この理念を補完する三つの「目指す姿」として、①「人と仕事が育つことで、社員と家族が共に手をつなぎ、豊かな人生を歩む会社を目指す」、②「お客様に『安全』と『よろこび』を提供し、笑顔をつなぎ世界平和に寄与する会社を目指す」、③「環境問題に果敢に取り組み、持続可能な社会を次世代につなぐ会社を目指す」とある。

地方自治体の事例としては、全国的にも評価が高いのが、北海道北部の下川町である。人口3,300人、環境未来都市とSDGs未来都市に選定され、2017年第1回日本SDGs推進本部長賞受賞。東京都23区とほぼ同じ面積で9割が森林。スキージャンプの葛西紀明選手の出生地でもある。伐採―植林―育林―伐採の循環型森林経営で国際的に厳しいFCS森林認証を取得した。バイオマスなど再生エネルギーで地域熱自給率49%。遠隔地テレワークを受け入れ、転入増加と住民税収入が2009年から2016年で16.1%増加した。^(注3)

なお、本号では、1991年の1月からと7月から実施された同友会大学第21期と第22期の事例分析によって「共有」概念の構造仮説を検証したい。

第1章 北海道中小企業家同友会第21期同友会大学

(1) 第21期同友会大学の日程と講義概要

第21期同友会大学は、1991年1月14日(月)午後6～9時、札幌市中央区北4条西16丁目第一ビル、同友会会議室を会場に開校式が行われた。受講生は55名であった。開校式では、学長挨拶、代表理事祝辞、出席講師の祝辞、受講生代表の決意表明が行われた。

開校式の直後には、湾岸戦争がはじまり、さらに、同年12月25日旧ソ連邦が解体し、世界的激動年の第21期同友会大学の開校であった。受講生の決意表明は、シオン・樹脂工業(株)主任、栗田環通氏が行い、「過去を知り現在を把握することによって未来に向かって、どう進むべきか明らかになると思います。」と学びの意欲を表明している。^(注4)

第21期カリキュラムの各単元のテーマは変わらないが、順序が変わっている。前回は、「経営と法律」が単元Ⅲで、「経営分析」が単元Ⅳであったが、この順番が入れ替わっている。

単元Ⅰ、「経済と中小企業」の第1講義は、前回第20期同様札幌学院大学三好宏一教授の「経済学とは何か～経済学の歴史と現代～」となっている。第2講義は、前回の北大佐々木隆生教授の「現代の世界経済をどうみるか」に代わって、北大是永純弘教授「世界経済を見る視

資料 1 北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第 21 期）

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
開 校 式		
'91 1月14日(月)	◎学長あいさつ, 教育委員の紹介, ガイダンス ◎班編成の発表, 性格・職業興味検査	
単元Ⅰ 経 済 と 中 小 企 業		
1月18日(金)	◎経済学とは何か ～経済学の歴史と現代～	札幌学院大学 教授 三好 宏一氏
1月21日(月)	◎世界経済を見る視点	北海道大学 教授 是永 純弘氏
1月23日(水)	◎現代日本経済と日本的経営	北海道大学 教授 ^(ママ) 富森 虔児氏
1月28日(月)	◎これからの中小企業の経営戦略	北海道大学 教授 眞野 脩氏
2月1日(金)	◎現代の情勢をどう理解するか ～グループ研究(1)～	札幌大学 教授 森 杲氏
単元Ⅱ 北 海 道 論		
2月4日(月)	◎北海道の近代史から学ぶ	武蔵女子短大 教授 永井 秀夫氏
2月8日(金)	◎北海道の風土と文学	藤女子大学 教授 小笠原 克氏
2月13日(水)	◎北海道経済の過去・現在・未来	北海道大学 教授 山田 定市氏
2月15日(金)	◎北方少数民族の生き方で考える ～もうひとつの北海道史～	日本民族学会 会員 田中 了氏
単元Ⅲ 経 営 と 分 析		
2月18日(月)	◎経営分析の ABC	税理士 芥川満砂子氏
2月22日(金)	◎経営分析のすすめ方	税理士 藤田 時人氏
2月25日(月)	◎経営分析の事例研究(1)	税理士 池戸 俊幸氏
2月26日(火)	◎経営分析の事例研究(2)	税理士 池戸 俊幸氏
単元Ⅳ 経 営 と 法 律		
3月4日(月)	◎日本国憲法と私たちの課題	弁護士 郷路 征記氏
3月8日(金)	◎労働法の基礎知識	弁護士 伊藤 誠一氏

講義時間：18：00～21：00

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
3月11日(月)	◎債権の管理と回収(1)	弁護士 向井 清利氏
3月15日(金)	◎債権の管理と回収(2)	弁護士 向井 清利氏
単元Ⅴ 科 学 技 術 論		
3月18日(月)	◎科学と人間 ～自然科学の発展と人間生活～	札幌学院大学 教授 田中 一氏
3月22日(金)	◎科学技術の発展と健康	北海道大学 教授 福地 保馬氏
3月25日(月)	◎科学技術の発展と人類の課題	北海道大学 助教授 赤石 義紀氏
3月28日(休)	◎バイオインダストリーと北海道の未来	北海道東海大学 教授 西村 弘行氏
4月1日(月)	◎コンピュータと情報化時代	北海道大学 助教授 山本 強氏
単元Ⅵ 人 間 と 教 育		
4月5日(金)	◎幹部に求められる現代のマナー	北海道同友会 事務局長 西谷 博明氏
4月8日(月)	◎教育の歴史と本質	北海道大学 教授 竹田 正直氏
4月12日(金)	◎日本の教育と人間の発達 ～現代青年の特徴と成長の可能性～	札幌学院大学 教授 鈴木 秀一氏
4月15日(月)	◎現代人の社会心理と組織の生かし方	北海学園大学 教授 後藤 啓一氏
4月19日(金)	◎“知恵”ある人間に育つために	北海道大学 非常勤講師 方波見雅夫氏
4月22日(月)	◎社員と共に育ちあう企業づくり	(株)共同印刷 社長 木野口 功氏
総 括 講 義		
4月26日(金)	◎中小企業の未来と私たちの課題 ～同友会大学で何を学んだか(グループ討論)～	北海道同友会 専務理事 大久保尚孝氏

※卒論の提出

※卒業式は5月13日(月)

出典：講義カリキュラム(第21期)、細川修責任編集『同友会大学第21期生記録集“豊かな人間をめざして”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会、1991年7月刊、4-5頁。

決意表明

同友会社員教育の最高峰に位置するこの同友会大学に、本日より入学できることは、大変光栄であり、感謝の念でいっぱいでございます。

現在、国内外の社会・経済情勢は、おだやかな状態ではありません。過去を知り現在を把握することによって未来に向かって、どう進むべきか明らかになると思います。その為にこそ同友会大学で学び、視野を広げることが大変貴重なものになることは間違いありません。

ここにいる私達は、会社の経営者にチャンスを与えられ、同僚や家族の協力で支えられています。周りの人達の期待に応えるべく向上心に燃え、講義に集中し、一つでも多くのことを学び、卒業することが最低のマナーであります。

最後までねばり強く頑張りたいと思いますので、皆様のご指導をお願い申し上げ、同友会大学入校にあたっての決意とさせていただきます。

1991年1月14日

同友会大学第21期生代表
シオン・樹脂工業株式会社
栗田環通

出典：栗田環通「決意表明」、細川修責任編集『同友会大学第21期生記録集“豊かな人間をめざして”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会、1991年7月刊、9頁。

点]になっている。第3講義は、北大富森虔児教授「現代日本経済と日本的経営」、第4講義は、北大真野脩教授「これからの中小企業の経営戦略」、第5講義は、札幌大学森杲教授「現代の情勢をどう理解するか～グループ研究(1)～」であり、この3教授は第20期と同様である。

単元Ⅱ、「北海道論」は、今回、第1講義、北大永井秀夫教授、第2講義、藤女子大学小笠原克教授、第3、北大山田定市教授、第4、日本民族学会田中了会員の順である。4人の担当者は前回と同じであるし、テーマも前回同様であるが講義順が変更している。つまり、前回は、第1、永井教授、第2、田中会員、第3、小笠原教授、第4、山田教授であった。この変更は、単元構成上の意味とは考えられず、講師の日程上のことと考える。

単元Ⅲ、「経営と分析」は、前回の「経営分析」は、従来の単元Ⅳにもどっていたが、今回は再び、単元Ⅲに変更している。理由は不明であるが、日程上と推定される。担当講師、芥川満砂子税理士、藤田時人税理士、池戸俊幸税理士の担当者とテーマ、講義順の変化はない。池戸税理士の第4講義の主テーマは同じだが、前回あったサブテーマ「グループ研究(2)」が削除されている。

単元Ⅳ、「経営と法律」は、全員弁護士の郷路柁記氏、向井清利氏の担当は前回と同様である。郷路弁護士と向井弁護士は、テーマも講義順も不変あるが、第2講義は、テーマも担当者も変わっている。前回、第2講義の田中燈一弁護士「民・商法の基礎知識」が、今回は、伊藤誠一弁護士で、テーマは「労働法の基礎知識」となっている。

単元Ⅴ,「科学技術論」は,第1講義,北大田中一教授は,前回とテーマも順番も同じである。第2講義が,前は北大是永純弘教授「先端技術の社会問題」であったが,単元Ⅰの担当になったので,今回は,新たに北大福地保馬教授が「科学技術の発展と健康」のテーマで担当している。福地教授は医師でもあり,北大教育学部で保健衛生健康教育を担当し,労働災害と健康問題の優れた研究実績を有している。第3講義は,前は単元Ⅴの最後であった北大赤石義紀助教授が担当し,テーマは変わっていない。第4講義は,北海道東海大学西村弘行教授で,第5講義の北大山本強助教授とともにテーマも前回同様である。

単元Ⅵ,「人間と教育」は,第1講義は,北海道同友会西谷博明事務局長,第2講義は,北大竹田正直教授,第3講義は札幌学院大学鈴木秀一教授,第4講義,北海学園大学後藤啓一教授,第5講義,北大非常勤講師方波見雅夫講師,第6講義,(株)共同印刷木野口功社長で,担当者もテーマも変わらず,後藤教授と方波見講師の順番が前回と入れ変わっているだけである。

「総括講義」は,従前同様,北海道同友会大久保尚孝専務理事が担当している。^(注5)

(2) 第21期同友会大学の受講生・卒業生の特徴と課題レポート

第21期受講生は,前回より5名多い55名の受講生で始まった。女性は1名のみで極めて少ない受講である。

卒業式は,1991年5月13日(月)午後6時から「りんゆうホール」(札幌市東区北9条東2丁目,(株)りんゆう観光,3F)で行われたが,卒業生は,55名の受講生中48名で,卒業率は87.3%と第11位とこれまでの中位である。皆勤賞は14名で,皆勤率は29.2%で,21期中第20位である。レポートの平均点は63.3点で第9位であった。

西谷博明事務局長によれば,「今回,欠席や遅刻が目立ち,仕事の関係もあるでしょうが,講師に申し訳ない気持ちでいっぱいです。質問も少なかったように思います。」とあるが,他方,「レポートに取り組む姿勢は極めて誠実」とのことであった。^(注6)

特別賞に関しては努力賞が一人で,大槻修滋氏(株)中央設計札幌事務所所長)である。また,皆勤賞は次の14名である。石井宏和氏(株)宇佐美商会課長),市澤文康氏(タナカ化学株)主任),大黒俊昭氏(株)アーキビジョン21常務),大沼良孝氏(株)吉山塗料店),恩田勉氏(株)鼻和組常務),金谷唯志氏(ベル食品株),倉田肇氏(ベル食品株)主任),栗田環通氏(樹脂工業株)主任),竹田幸盛氏(あけぼの住宅設備株)主任),松原恵二氏(株)浜野主任),湊浩紀氏(株)りんゆう観光),最上浩氏(株)まるとみコーポレーション),米倉清隆氏(ダイヤ冷暖房株)次長),渡辺賢一氏(札幌石油株)である。^(注7)

単元Ⅰ～Ⅴの課題レポートと卒業論文,各人合計6本の中から,編集者が1本選んで,細川修責任編集『同友会大学第21期生記録集“豊かな人間をめざして”』,北海道中小企業家同友会社員教育委員会,1991年7月刊,に掲載しているが,特徴的な論文を取り上げてみたい。

単元Ⅰ,「経済と中小企業」では,菅原美智子氏(菅原建築デザイン事務所)が,「日本の経済と中小企業」と題してデータをあげて日米比較をして日本経済の発展を示している。日本の

GNPの世界に占める比率は、1975年の7.9%から88年は、14.2%に、米国は25.8%から24.1%へと下げている。世界の輸出に対する比率は、日本が75年の6.7%から89年の9.5%へ上昇、米国は13.1%から12.6%へ低下。この背景に日本の中小企業の大きな役割があるとしている。しかし、「中小企業の借入金依存度が高まったこと」と、「きつい」・「汚い」・「危険」の「3K」企業などの「人手不足」を中小企業の課題としている。^(注8)

日本の「経済大国」を問うたのが、後藤功也氏（ケイ・アイ・シー(株)マネージャー）で、「近代的な下水道施設」は、イギリス97%、アメリカ85%、日本34%、「住宅の平均サイズ」アメリカ160平方メートル、日本100平方メートル、「年間労働時間」は製造業で日本2,150時間、西ドイツ1,600時間、アメリカ、イギリス2,000時間弱、日本の食料費はアメリカの約2倍、住宅費1.5倍、高熱水道費2倍、サービス料1.5倍をあげている。

中村全氏（タナカ化学(株)主任）は、「湾岸戦争がもたらすもの」のテーマで、日本がアメリカへ90億ドルの支援をし、アメリカは食料や医療品に使うと言っているが、「他人が何に使おうが仕方なく」、「第二次、第三次の資金援助も考えられ」「消費税税率アップもウワサされる。」資源の損失も免れず各国の多大な無駄な投資と述べている。^(注9)

単元Ⅱ、北海道論については、9名のレポートが掲載されている。菅原泰夫氏（ハマシステム販売(株)課長）や鶴田隆義氏（(株)エース部長）など多くの受講生は、1868年7月に北海道開拓使を設置し、屯田兵等を各地に入殖させ、先住民のアイヌを武力と懐柔策で従属させ、更には、「囚人労働」、「タコ部屋」、「朝鮮人」を酷使した開拓の歴史に触れている。敗戦後は、1952-1962年の第1期総合開発計画に始まり、第2期、第3期と総合開発計画が実施されるが、スクラップ・アンド・ビルドを基調とした地域経済の不均衡発展である。^(注10)

また、倉本仁司氏（(株)コスモ工場長）は、「民主主義運動の伝統」のテーマで、北海道はいろんな運動で独自の動きが見られるとして、「基地反対・平和運動、労働運動とも深くかかわりつつ、教育運動・福祉運動」の発展や、「生活協同組合運動、中小企業・都市自営業者の共同運動、さらに少数民族の生活と権利を守る運動」などが見られるという。^(注11)

北海道論の中では、金谷唯志氏（ベル食品(株)）が「北海道の開拓とロシア」のテーマで、江戸時代中期から、ロシアがシベリアを経由して、カムチャッカから千島列島へ南下し、樺太への上陸、函館開港問題から、日露通好条約締結へと展開している。「幕末、開港後の函館は、一転して、西洋近代文化流入の門、先進地となり、それまで日本人が生活できなかったこの島に、西洋文明の技術で生活と開拓が可能になった」と述べている。^(注12)

単元Ⅲ「経営と分析」は、2名の発表があるが、決算の分析である。

単元Ⅳ「経営と法律」は、11人のレポートの掲載がある。大泉明彦氏（(株)白石ゴム製作所係長）は、「わが国の民主主義の成熟度」では、戦前のマスコミは妥協を繰り返し、「ついには軍部の手先になって国民をかり立てた。」戦後、言論の自由が保障されたが、「権力に弱い体質は変わっておらず」、「自主規制」してしまう。湾岸戦争でもそれが見られる。「今も、日本に本当の『世論』が存在するのには、大いに疑問だ。」^(注13) 石井宏和氏（(株)宇佐美商会課長）は

「日本国憲法と人権」で、古典的自由権に加えて「勤労者の権利（第28条）を中心とした生存権的基本権が認められている。」第1に、「平和的に生存する権利」、いわゆる「平和的生存権」であり、第2に、「新しい人権」としての「環境権」に代用される、「人間としての生活を維持するための権利」である。第3に、「市民的自由の見直し」の課題であり、「企業内での経営者による労働者の人権侵害」や、「労働組合内の個々の組合員にたいする人権侵害」を見直し、あらゆる場での「市民的自由」の尊重を提起している。^(注14)

田村成之氏（株鼻和組課長）は、国際平和を目指す戦争放棄と基本的人権に注目している。「第9条の発案者といわれる幣原国務大臣は『文明と戦争は両立せず、文明が速やかに戦争を絶滅しなければ、戦争がまず文明を絶滅することになる』と述べた」とし、世界平和を積極的に創造すべきと注意を喚起した。また、基本的人権については、「永久の権利」として、「立法権・行政権・司法権・憲法改正権」を国家権力が侵すことのできない権利とし、さらに「自由権・社会権・受益権・参政権保障」を重視している。^(注15)

単元V「科学技術論」は、12名のレポートが掲載されている。山崎武氏（株山崎製作所社長）は、「人類の生活は科学を土台として成り立ってきた」として、科学技術が人間の幸福に役だつ事をおさえた上で、核兵器の使用が「人類の絶滅」をもたらすし、環境汚染の問題を引き起こしている。これからは、生物全体を視野に入れた科学技術の発展と、人間らしさをめざし、公開を習慣づけるべきとしている。「人間が作り出した科学技術だから、人間の責任において地球を守り、人間をまもらなければならないだろう。」と公開の原則を強調した。^(注16)

佐藤正美氏（恒星設備株係長）は、高度成長期の公害は、鉱山や工場からの「タレ流し」であったが、最近の公害は、すぐには現れないことと、影響が「地球規模」になっているとし、事例として「オゾン層の破壊」を上げている。半導体の洗浄やクーラーの冷媒によるフロンガスがオゾン層を破壊し、「皮膚ガンや視力障害が多発し、農業生産も阻害されてしまう。」さらに、河川水の汚染、地下水の汚染、プラスチックによる海洋汚染、リゾート開発による沿岸生態系の破壊、土壌破壊、チェルノブイリ事故による穀倉地帯の破壊をあげ、警告を発している。国連が2015年に全加盟国で採択したSDGs（持続可能な開発目標）の土台となる諸事実がすでに提起されていたといえる。^(注17)

卒業論文では、4名が掲載されている。稲垣英敏氏（有グリーン・ハウザー商会は、「中小企業と労働時間短縮」のテーマで卒論を提出した。長時間労働や残業は中小企業の大きな問題である。まず、労働時間の国際比較を行い、製造業で日本の労働時間は、年間で西ドイツより500時間長く、米英よりも200時間長い。過労死、行方不明、自殺、脳血管疾患、ストレスの慢性化が起こるのが労働科学研究所の調査では、35～54歳が多いという。「仕事の流れや予定の組み方を、もう一度見直すことが大切だと思う。」と述べている。実際、同友会大学講師の助言で自らの職場を見直し、従来、夜9時までかかっていた仕事を6時ころで終わることが分かったという。^(注18)

松原恵二氏（株浜野主任）は、「中小企業の可能性」のテーマで卒論を執筆している。北海

道の以前の基幹産業であった北洋漁業、鉄鋼、石炭、パルプなどが転換期を迎え、中小企業は新たな分野への転換、進出が求められている。今後は内需拡大が重要で、地域に密着している中小企業こそ成長しうる。また、生産第一から顧客第一の時代となり、「中小企業の有利性がますます真価を発揮することのできる時代なのである。人間味あふれる中小企業は、豊かな人間性の回復を求め、新しい生活文化の創造を求める現代の消費者ニーズ」に対応できるとし、その実績と未来への可能性を強調している。^(注19)

(3) 第21期同友会大学卒業生への祝辞と励まし

第21期同友会大学卒業式は、1991年5月13日（月）午後6時から、札幌市東区北9条東2丁目、株りんゆう会館3階、りんゆうホールで行われた。卒業式は、西村信同友会大学学長（北海道同友会社員教育委員長、㈱ニシムラ代表取締役副社長）の式辞で始まった。西村学長は、今期48名の卒業で卒業生総数は918名となり「大きな大きな力」になる。今期はとくに湾岸戦争があり、「この本質は、地球的な、全宇宙的な視野で様々な角度から学ばなければ見えてこない」と学びの原点を示した。この4カ月で「問題意識・課題意識」がしっかりとみなさんに根づいた。民主主義についてのあの有名なリンカーンの言葉は政治集会での演説で語られ、その場に多くの記者がいたが、ただ一人、絶えず「民主政治とは何か」を考えていた記者だけが注目して一紙だけが報道したのが、現在までも語り継がれているのであり、「問題意識・課題意識」が如何に大切かを示した。^(注20)

北海道同友会代表理事の一人千葉一氏（北雄ラッキー㈱会長）は、「同友会大学は、経営者だけでなく、『会社を支えている幹部社員も共に学んでこそ、しっかりした経営基盤を作ることができるだろう』という“共育”の考え方で取り組んで参りました。…苦労して学ばれた後がチャンスです。大いに活躍されることを期待いたします。」と、自らの学習体験とその後の企業発展の実践を示しつつ祝辞を述べた。

講師の出席は二人で、札幌大学森杲教授は、「西村学長もふれていましたが、疑問や問題意識を持てることが成長の証しです。知識は3カ月で7、80%忘れてしまいますが、体の中に残って人となりになったものは、他の人からよく見えるものなのです。」と指摘した。ついで、10年間にわたる若者との毎月1冊の本を読む会での人の変化、成長の経験を述べ、この大学の卒業が「知的関心のトレーニングの癖をつける出発点としていただきたい。……私自身、大いに熱を入れて同友会とかかわっていきます。同窓会で、またお会いできることを楽しみにしております。」と展望を示して祝辞を結んだ。

北大竹田正直教授は、第1に、学生時代のボート部での朝晩各2時間の練習、即ち、1回3キロほど痩せる激しい練習のさい、ボート部長でコーチの堀内寿郎教授（後に北大学長）が「ボートは世界で最も苦しいスポーツだ。これ以上の苦しみはない。」といわれたことを胸にいろんな苦しみを乗り越え、継続して成し遂げてきたことを述べた。第2に、理論物理学者ホーキング博士の宇宙論からクオークの微小世界までとらえていることを例にして、「個々の

人々から、全世界の経済までとらえることが必要です。又、一人ひとりを見る場合も一面的ではなく全面的にとらえること」を贈る言葉とした。

次いで、同友会大学同窓会会長岡村敏之氏（ダイヤ冷暖房工業㈱社長）が、同窓会を代表して祝辞を述べた。「皆さんは、この4カ月間で大局的な物の見方、考え方を学び身につけられました。これらをいかに今後の仕事の中に、生活の中に生かしていくのが課題です。」全国の同友会から注目されている同友会大学が10周年を迎え、その記念の年の第21期卒業生は大きな期待が寄せられている。「同期会・同窓会には、卒業後の一つの勉強の場として積極的に参加していただきたいと思います。」^(注21)

社員教育委員会での講評を述べた事務局長の西谷博明氏は、「同友会大学の卒業は終わりではなく、怠惰になりがちな自分と戦い真実な人間へと成長するためのスタートであります。」90年代から21世紀にかけて、人間くささと文化が重視され、物事の本質が厳しく問われる時代になるでしょうとして、「90年代のキーワードは、自主性と民主性、人間性と科学性ではないかと思っています」と、本質的な示唆を与えてくれた。^(注22)

最後に卒業生代表の「答辞」があり、大槻修滋氏（㈱中央設計札幌事務所所長）が第21期卒業生を代表して朗読した。「この4カ月間、同友会の『自主・民主・連帯』の精神、真理、真実を探求し、平和を愛し、人間の尊厳、多様性を大事にする民主的な思想、人間の社会性の故に必要な連帯を学びました。又、大勢の仲間とも知り合え、共に学ぶことも出来ました。講義の中身も実践的であり、新鮮であり、刺激的であり、激動と怒涛の20世紀最後の10年間にふさわしい充実した内容でした。」「しかし、これが終わりではなく、ここから諸先生方、同窓生及び諸先輩方、そして同友会会員の皆様との連帯が始まり、共に学び、共に育つことが始まるんだと言う気概で一杯です。」と、格調高い答辞を述べた。^(注23)

なお、第21期同友会大学が開催されていた期間に北海道同友会札幌支部の2月例会では、「今、社員教育のあり方を問う」という注目すべきテーマで例会が行われた。同友会大学の西村信学長や岡村敏之同窓会長、宇山照悦氏（札幌支部社員教育副委員長、㈱うやまビューティサロン社長）、柏崎俊雄氏（札幌支部社員教育副委員長、アイ・ティ・エス㈱社長）が問題提起をしていて興味深い。西村信氏は、社員が育つ条件として、第1に、人間としてのありようを指し示す経営理念の確立、第2に、会社に民主的雰囲気定着し、共に学び共に育ち、共に生き合う関係が作られていること、第3に、トップ自身が謙虚に自分をチェックする姿勢を持つことを挙げている。岡村敏之氏は、第1に、なぜ学ぶか、なぜ研修するかを指導し、本人の変化をフォローする。第2に、経営者が研修会の中身をよく知り、受講の様子も聞きアドバイスをする。第3に、自社のレベルを正確に把握し、レベルアップを図る。

宇山照悦氏は、同友会の「共に学び共に育つ」姿勢が大切で、第1に、口で説明するだけでなく、行動を共にして体得してもらおう。第2に、社長の夢と自分の人生とのかかわりをつかんでもらおう。第3に、部下の教育ができる幹部を育てること、第4に、技術だけでなく人間的なレベルアップをはかることを指摘している。柏崎俊雄氏は、社員教育にとって大切なことは、

資料3

答 辞

本日、私達は、同友会大学第21期生として、卒業を迎えることが出来ました。

1月14日の開校式の3日後に湾岸戦争が勃発するという世界情勢の激変の中で、同友会大学で学ぶことが出来たことは、私達にとって大変意義深いものでした。

戦争の中で学ぶと言うのはそうそう経験できることではありません。そのような情勢のもとで、先生方の力が入った講義は、混沌の中に理性の光をあて、私達の進むべき方向を示して下さいました。戦争と平和について、同友会大学で総合的に学ぶことが出来たことは、21期生の貴重な財産であり、誇りでもあります。

この4カ月間、同友会の「自主・民主・連帯」の精神、真理、真実を探求し、平和を愛し、人間の尊厳、多様性を大事にする民主的な思想、人間の社会性の故に必要な連帯を学びました。又、大勢の仲間とも知り合え、共に学ぶことが出来ました。

講義の中身は、実践的であり、新鮮であり、刺激的であり、激動と怒濤の20世紀最後の十年間にふさわしい充実した内容でした。多岐に渡った講義は、中小企業の未来と、次代を担う私達の果たすべき役割と大きな課題を指し示してくれました。

時代は、政治・経済を根底から見直すことを要求しています。そしてその先頭に立つのは、中小企業とりわけ同友会の会員企業の私達でありましょう。人間が人間らしく生き、真に豊かでゆとりのある社会を展望する中小企業の一員として自覚し、これからも謙虚に学ぶことを、決意しております。

いま私達は、この同友会大学を巣立ちます。しかし、これが終わりではなく、ここから諸先生方、同窓生及び諸先輩方、そして同友会会員の皆様との連帯が始まり、共に学び、共に育つことが始まるんだと言う気概で一杯です。

これからも、同友会大学第21期生卒業生として、しっかりと明日を見つめ、21世紀を見据えて行きたいと思っています。

最後に、ご臨席の皆様のご心温まるご祝辞と励まし、熱心にご講義して下さいました諸先生方、経営者の皆様、同友会事務局の皆様、そして理解ある応援をいただいた同僚の皆様、卒業という感動を送っていただいたことに、深く感謝申し上げますと共に、今後一層のご指導、ご鞭撻をお願いし、卒業生代表の答辞と致します。

1991年5月13日

北海道中小企業家同友会
同友会大学第21期生代表
（株）中央設計札幌事務所
所長 大槻修滋

出典：大槻修滋「答辞」、細川修責任編集『同友会大学第21期生記録集“豊かな人間をめざして”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会、1991年7月刊、62頁。

第1に、現代をどう生きるのかという生き方の問題を基本に据える、第2は、先輩教育をしっかりとすること、第3に、その人の能力よりも少し高めめの課題を与えることとしている。さすが、人間教育を中心に据え、経営者が共に学び共に育ち、幹部教育についても内容と経過をしっかりと把握することなど核心を突いた問題提起をしている。^(注24)

また、1991年6月7日には、北海道厚生年金会館に、全道5,220社会員を代表する317名の役員・会員の代議員が参加して北海道同友会第23回定時総会が行われた。西村信同友会大

学学長・社員教育委員長はこの総会でも社員教育に関する特別報告を行っている。さらに、この総会で、「経営者大学」の卒業者、三浦隆雄氏（㈱サンコー社長）、佐々木仁氏（明電興業㈱社長）、藤井正氏（㈱北海道ハン六社長）、赤塚岩治氏（㈱北日本カーペンター社長）の4名に、特大の経営者大学卒業証書が石山博規代表理事から授与された。^(注25)

第2章 北海道中小企業家同友会第22期同友会大学

(1) 第22期同友会大学の日程と講義概要

第22期同友会大学は、1991年7月8日（月）午後6～9時、札幌市中央区北4条西16丁目第一ビル同友会会議室を会場に開校式を行い、11月11日（月）のりんゆうホールでの卒業式まで、同友会会議室を教室にして、開校式を含め30講義が行われた。

開校式は、学長の式辞や講師陣など来賓の祝辞の後、44名の受講生と1名の聴講生を代表して、笠原英志氏（㈱ユタカ商会チーフバイヤー）が「決意表明」を行った。「激動の時代と言われる90年代、様々な環境の変化の中で大きな視野で物事を見る」ことが、益々大切になるとし、「これから4カ月間、学ぶチャンスを生かし、共に学び、共に励まし合いながら、少しでも多くにことを知り、人間として豊かに成長して企業のために、同友会のために、地域社会のために少しでも貢献したいと決意を新たにしております。」と、堂々と受講にあたっての決意を披歴した。^(注26)

第22期の単元構成は、単元のテーマも順番もほぼ第21期と変わらない。

単元Ⅰ、「経済と中小企業」の第1講義は、第21期同様札幌学院大学三好宏一教授である。第2講義が、前回の北大は永純弘教授「世界経済を見る視点」から、札幌大学小島基男教授、テーマ「アメリカ経済の現状と展望～日米経済摩擦との関わりで考える～」に代わっている。第3講義の北大富森虔児教授、第4講義の北大真野脩教授、第5講義の札幌大学森早教授の3教授は第21期と同様である。第2講義の是永教授から小島教授への変更の理由は不明である。湾岸戦争でアメリカなど多国籍軍への、多大な支援金問題が関係しているかも知れない。

単元Ⅱ、「北海道論」は、今回、第1講義、北大永井秀夫教授、第2講義、日本民族学会田中了会員、第3、藤女子大学小笠原克教授、第4、北大山田定市教授、の4人の担当者は、前回と同じである。テーマも前回同様であるが講義順が変更している。つまり、前は、第1、永井教授、第2、小笠原教授、第3、山田教授、第4、田中会員であった。この変更は、単元構成上の意味とは考えられず、講師の日程上のことと考える。

単元Ⅲ、「経営と分析」は、前々回の「経営分析」が、従来の単元Ⅳにもどっていたが、今回は前回同様、単元Ⅲに変更している。担当講師、芥川満砂子税理士、藤田時人税理士は変わらないが、前回、第3、第4、担当の池戸俊幸税理士が外れて、藤田時人税理士が担当者となっている。テーマ、講義順の変化はない。

単元Ⅳ、「経営と法律」は、全員弁護士の郷路証記氏、伊藤誠一氏、向井清利氏の担当、

資料 4 北海道中小企業家同友会「同友会大学」講義カリキュラム（第 22 期）

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
開 校 式		
'91 7月8日(月)	◎学長あいさつ, 教育委員会の紹介, ガイダンス ◎班編成の発表, 性格・職業興味検査	
単元Ⅰ 経 済 と 中 小 企 業		
7月12日(金)	◎経済学とは何か ～経済学の歴史と現代～	札幌学院大学 教授 三好 宏一氏
7月15日(月)	◎アメリカ経済の現状と展望 ～日米経済摩擦との関わりで考える～	札幌大学 教授 小島 基男氏
7月19日(金)	◎現代の日本経済と日本的経営	北海道大学 教授 ^(ママ) 富森 虔児氏
7月22日(月)	◎これからの中小企業の経営戦略	北海道大学 教授 眞野 脩氏
7月26日(金)	◎現代の情勢をどう理解するか ～グループワーク(1)～	札幌大学 教授 森 杲氏
単元Ⅱ 北 海 道 論		
7月29日(月)	◎北海道の近代史から学ぶ	武蔵女子短大 教授 永井 秀夫氏
8月2日(金)	◎北方少数民族の生き方で考える ～もうひとつの北海道史～	日本民族学会 会員 田中 了氏
8月5日(月)	◎北海道の風土と文学	藤女子大学 教授 小笠原 克氏
8月9日(金)	◎北海道経済の過去・現在・未来	北海道大学 教授 山田 定市氏
単元Ⅲ 経 営 分 析		
8月12日(月)	◎経営分析の ABC	税理士 芥川満砂子氏
8月16日(金)	◎経営分析のすすめ方	税理士 藤田 時人氏
8月19日(月)	◎経営分析の事例研究(1)	税理士 藤田 時人氏
8月23日(金)	◎経営分析の事例研究(2) ～グループワーク(2)～	税理士 藤田 時人氏
単元Ⅳ 経 営 と 法 律		
8月26日(月)	◎日本国憲法と私たちの課題	弁護士 郷路 征記氏
8月30日(金)	◎労働法の基礎知識	弁護士 伊藤 誠一氏

講義時間：18：00～21：00

日 程	講 義 テ ー マ	講 師
9月2日(月)	◎債権の管理と回収(1)	弁護士 向井 清利氏
9月6日(金)	◎債権の管理と回収(2)	弁護士 向井 清利氏
単元Ⅴ 科 学 技 術 論		
9月9日(月)	◎コンピュータと情報化時代	北海道大学 助教授 山本 強氏
9月13日(金)	◎先端技術の社会問題	北海道大学 教授 是永 純弘氏
9月17日(火)	◎科学と人間 ～自然科学の発展と人間生活～	札幌学院大学 教授 田中 一氏
9月20日(金)	◎バイオインダストリーと北海道の未来	北海道東海大学 教授 西村 弘行氏
9月24日(火)	◎科学技術の発展と人類の課題 ～グループワーク(3)～	北海道大学 助教授 赤石 義紀氏
単元Ⅵ 人 間 と 教 育		
9月27日(金)	◎現代と幹部のマナー	北海道同友会 事務局長 西谷 博明氏
9月30日(月)	◎社員と共に育ち合う企業づくり	(株)共同印刷 社長 木野口 功氏
10月4日(金)	◎激動の時代を生きた人間群像 ～明治維新を担った人々～	札幌学院大学 教授 田中 彰氏
10月7日(月)	◎現代の若者をどう理解し、どう生かすか	北海学園大学 教授 後藤 啓一氏
10月11日(金)	◎“知恵”ある人間に育つために	北海道大学 非常勤講師 方波見雅夫氏
10月14日(月)	◎現代の若者と日本の教育	北海道大学 教授 竹田 正直氏
総 括 講 義		
10月18日(金)	◎中小企業の未来と私たちの課題 ～同友会大学で何を学んだか(グループ討論)～	北海道同友会 専務理事 大久保尚孝氏

※卒業式は 11月11日(月) 18：00～20：30

出典：講義カリキュラム(第22期)、細川修責任編集『同友会大学第22期生記録集“知識を知恵に”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会、1992年1月刊、4-5頁。

決意表明

同友会大学の第 22 期生として、今ここに参列することができ、このような機会を与えられた喜びと責任を強く感じております。

激動の時代と言われる 90 年代、様々な環境の変化の中で大きな視野で物事を見るという事が、増々大切になってくると思います。

同友会大学の中で私達がどれだけ深く学べるかは、今後自分にとっても企業にとっても大きな影響を与えるに違いありません。

本日より、同友会大学第 22 期生として、これから 4 カ月間、学ぶチャンスを生かし、共に学び、共に励まし合いながら、少しでも多くのことを知り、人間として豊に成長して企業のために、同友会のために、地域社会のために少しでも貢献したいと決意を新たにしております。

講師の皆様、同友会の皆様、会社の経営者や同僚に対し、この機会を与えて下さったことに感謝を申し上げますと共に、引き続きご指導とご理解を賜りますようお願い申し上げます入学にあたっての決意表明といたします。

1991 年 7 月 8 日

同友会大学第 22 期生
株式会社ユタカ商会
笠原英志

出典：笠原英志「決意表明」、細川修責任編集『同友会大学第 22 期生記録集 “知識を知恵に”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会、1992 年 1 月刊、9 頁。

テーマ、順番とも前回と同様である。

単元Ⅳ、単元Ⅴ、「科学技術論」の構成は二つの変化がある。一つは、前回、それまでの北大是永純弘教授「先端技術の社会問題」に代わって、北大福地保馬教授「科学技術の発展と健康」が第 2 講義に入っていたが、今回、是永教授が以前の自分のテーマで第 2 講義に戻ってきた。二つ目は、講義順番が変わり、第 1 講義、北大山本強助教授、第 2 講義、北大是永純弘教授、第 3 講義、北大田中一教授、第 4 講義、北海道東海大学西村弘行教授、第 5 講義、北大赤石義紀助教授である。テーマは前回同様である。

単元Ⅵ、「人間と教育」は、第 1 講義は、北海道同友会西谷博明事務局長と第 5 講義、北大非常勤講師方波見雅夫講師は、テーマも順番も変わっていない、前回第 2 講義であった北大竹田正直教授は、順番が、前回第 6 講義の(株)共同印刷木野口功社長と順番が入り替わっている。さらに、竹田教授のテーマは、前回の「教育の歴史と本質」から、「現代の若者と日本の教育」に変わった。これは、前回も今回も第 4 講義の北海学園大学後藤啓一教授のテーマが、前回の「現代人の社会心理と組織の生かし方」から、「現代の若者をどう理解し、どう生かすか」とも対応し、若者の行動対応や若者文化が問題視されていたことと関係している。

前回、札幌学院大学鈴木秀一教授の若者成長論の第 3 講義が、同じ札幌学院大学の田中彰教

授の担当となり、テーマも変わって「激動の時代を生きた人間群像」となったこともある。永年、北大文学部教授であった田中彰教授は、日本近現代史の専門家として著名である。

「総括講義」は、従前同様、北海道同友会大久保尚孝専務理事が担当している。^(注27)

(2) 第22期同友会大学の受講生・卒業生の特徴

第22期受講生は、第21期55名より10名少なく、44名の新受講生と1名の聴講生、計45名でのスタートとなった。女性は前回の1名から数名増加しているが、まだまだ圧倒的に少ない。札幌市在住以外では、小樽市5名、石狩町3名、留萌市1名、岩見沢市1名と多彩な地域からの受講で、特に留萌市は、毎週夜2回、大変な「遠距離通学」である。

卒業は、44名の新受講生のうち、40名で卒業率は90.9%と高く、歴代第3位である。皆勤率は、50%と第12位でちょうど中位、しかし、レポートと卒業論文の平均点は、62.5点と第17位と振るわなかった。努力賞が1名で、藤田和也氏（写真廃液処理工業^(株)部長）である。皆勤賞は20名で、茨城武志氏（ベル食品^(株)）、岩崎昌幸氏（^(株)樽石主任）、大泉宗一氏（共栄エンジニアリング^(株)課長）、垣原広幸氏（^(株)サンコー主任）、黒川朝子氏（^(株)フォトテクノ北海道）、小玉洋美氏（^(株)エリア取締役）、斎藤和徳氏（^(有)リビングサプライ課長）、末政忠義氏（ベル食品^(株)）、高野康夫氏（マツダ^(株)課長）、竹内雅昭氏（^(株)サンコー主任）、田中仁氏（^(株)日本除雪機製作所係長代理）、田村邦昭氏（北日本計測コンサルタント^(株)次長）、傳法淳氏（北海道紙工業材料^(株)課長）、深澤裕氏（^(株)樽石課長）、藤田和也氏（写真廃液処理工業^(株)部長）、星良雄氏（^(株)吉田食販課長）、本間雅之氏（^(株)サンコー主任）、右田辰通夫氏（アイ・ティ・エス^(株)課長代理）、山田利晴氏（^(株)ヤマハミュージックストアエルム課長）、米田貢氏（^(株)サンコー主任）、である。^(注28)

第22期生記録集には、課題レポートや卒業論文が掲載されているが、西谷博明事務局長は、社員教育委員会での講評を次のように述べている。「全体としてレポートの水準は上がって、平均化してきて、飛びぬけて悪い人も、飛びぬけて良い人もいなくなったこともあります。ただ指定されたテーマと真っ正面から向き合い、本質的なところでズバリ切り込むレポートが極めて少ないのが残念です。このあたりが課題でしょう。」^(注29)

単元Ⅰの「経済と中小企業」では、課題が経済学説の背景と特徴ということもあり、様々な学説をとりあげ分析している。アダム・スミスの『諸国民の富の性質と原因についての研究』、リカードの『原理』、マルクスの『資本論』、ケインズの『一般理論』などで、掲載されたレポートテーマで多かったのはケインズの『一般理論』の歴史的背景と特徴についての分析であった。^(注30)

単元Ⅱの「北海道論」は、北海道経済の可能性と中小企業の役割が課題となっていた。井原慶児氏（井原水産^(株)副社長）は、北海道の経済発展の可能性について、「第1に北海道のもつ自然である」として、北海道のイメージの「自然、きれい、雄大」から、「食品加工」で、農産物や水産物の素材の「高次加工」を重視すべきである。土地も安く、通勤時間も短い。「第

2に、北海道は、ヨーロッパ・北米に日本では一番近いところに位置している」ので、「国際航空路の玄関口」になりうる。中小企業の「経営者も社員も北海道は田舎だという認識を捨て、日本の中で最も人間らしい生活の出来る」と考えるべきとしている。ゼロコロナやアフターコロナにも通ずる可能性を提起している。

高田正雄氏（㈱新協代表取締役）は、北海道開発政策の新たな方向を論じている。第1に、「住民の生活・健康を第一義的に位置づけ、地域産業の発展をそのための条件として意義づけることが重要である。」と指摘する。第2に、「地域開発における公的（とくに政府）投資の重要性」を強調している。第3に、北海道の基幹産業の農林水産業を基盤とする「食品加工業と建設業の発展」を促進する。製造業に占める食品加工業の比率は、「1986年に、全国12%、北海道で約42%である。」第4に、北海道の地域経済の担い手は「労働者と農漁民、都市自営業者、中小企業者等であるが」、組織体の「農協、生協、漁協、中小企業協同組合、商工会（会議所）等の役割が重要である。」^(注31)

単元Ⅳ、「経済と法律」では、「日本国憲法の基本理念を現代に生かす道」の課題に取り組んだ鈴木良一氏（㈱共同印刷管理部長）のレポートを見る。「20世紀の市民憲法として、基本的人権の尊重、国民主権、平和主義を原則としています。」しかし、「世界屈指の防衛費」や「過労死」、「大企業優先」などの実例をあげて、「残念ながら、その理想や目的のための政治を完全に実現させていません。」「全力で憲法の求める政治を完全に実現することが必要です。そして、私達一人一人の国民が日本国憲法の理解を深め、正しく日本の政治に参加していく事が重要且つ緊急な課題だと思います。」と結んでいる。^(注32)

単元Ⅴ、「科学技術論」では、科学技術を学ぶ現代的意義が問われ、山田利晴氏（㈱ヤマハミュージックストアエルム課長）は、科学技術の発達が我々の快適な生活に貢献しているが、反面、資源枯渇、環境汚染、核兵器、人間不在、人間退化、大気汚染、水質汚染、オゾン層破壊、温暖化、砂漠化、森林などの弊害をもたらしている。「一人ひとりが地球の危機を再確認し、国、企業、住民が一体となり、取り返しのつかない事態を招くことのないよう監視し、地球的課題を一つひとつ解決しなければならない。」^(注33)

「卒業論文」において、湯浅健生氏（ベル食品㈱）は、大企業との比較で、中小企業の弱点を、「資本力、信用力、技術力、人材等で相対的に劣っている」が、プラス面は、「小回り性・機動性・柔軟性・消費者への密着度及び企業家精神発揮の高さ」があり、多品種少量生産時代に入り、その弱点を補って余りあるという。さらに、「組織の冷たさ・非情さが薄められ、人間味横溢・人間臭さがより強く感じられる。」活躍している中小企業は、「企業固有の文化・伝統をふまえ、良い特性を伸ばし、独自の個性と創造性を発揮し、自主性・普遍性を確立して自進し」、中小企業の経営を守り、安定させ日本経済の自主的、平和的な繁栄をめざす努力をすべきとしている。^(注34)

(3) 第22期同友会大学卒業生への祝辞と励まし

第22期同友会大学卒業式は、1991年11月11日（月）午後6時から、札幌市東区北9条東2丁目、株りんゆう会館3階、りんゆうホールで行われた。卒業式は、卒業証書授与、特別表彰、学長式辞、北海道同友会代表理事祝辞、来賓（講師）祝辞、同窓会長祝辞、卒業生代表答辞、第22期同窓会役員選出、写真撮影で終了。次いで、若干の設営時間をとり、ホテル職員による祝賀会の設営、自由に同席した卒業生の企業のトップも同席した祝賀会で、ほぼ8時半で全部の予定が終了する。

西村信同友会大学学長（社員教育委員長、㈱ニシムラ代表取締役副社長）の式辞で始まった。西村学長は、今期40名の卒業（と第21期生1名の追加卒業）で卒業生総数は959名となり、「同友会活動の大きな戦力であり、今や同友会大学は全国から注目的」となっている。また、大田堯先生の「人間の持つ特質とは『目当てを持って働く』『目当てを持って生きる』ことにある」とし、その「目当て」は、「自分の持ち味とは何なのか、持ち味を社会にどうかかすか」という二つの問いかけの中で、見つけさせる。「この二つの問いかけを持ちつづけて、目当てというものをより高みに引き上げていただきたい」と述べた。^(注35)

北海道同友会代表理事関口功四郎氏（シオン・樹脂工業㈱社長）は、「これからは、企業も人も、目標を明確にし、何を選び、どう育て、どう活用するのか、しっかりと見つめなければならないと思います。しっかりした目標、希望を持っているかどうかは、時間が経つと大きな違いとなって現れます。……共に学んだ仲間を大切に」^(注36)

来賓祝辞では、方波見雅夫北大非常勤講師は、「人間には『結晶性』と『流動性』の二通りの記憶力があるといいます。年齢を重ねるほど過去の物事を良く覚えている『結晶性』が高まる一方、流動性の記憶力が低下し、最近のことは忘れがちになります。それを防ぐには、やはり目的を持って反復するのが何よりです。」と、今後の生き方を提起した。^(注37)

竹田正直北大教授は、卒業式の少し前に前橋市で行われた中同協の第7回社員教育活動全国研修・交流会へ、岡本敏之同窓会長（ダイヤ冷暖工業㈱社長）と柏崎俊雄札幌支部社員教育副委員長（アイ・ティ・エス㈱社長）と一緒に参加し、経営者が社員とともに企業を発展させ、「人間として経営者自身も、たゆみなく自己変革をとげていく。そして、まわりの全ての人々の人格の完成を目指して、豊かな人材育成に取り組もう、という強い意欲を感じました。」また、「人格の完成に限界はない」ことを強調した。^(注38)

岡村敏之同窓会長（ダイヤ冷暖工業㈱社長）も、中同協の第7回社員教育活動全国研修・交流会で、第22期生の感想文を紹介したが、「同友会大学で学ぶということは、人間が本来持っている知的好奇心を、がたがたと揺さぶられ、四カ月の間で人間が変わって行く」ことを全国に知ってほしかったからである。同窓会の3つの申し合わせ、①最低年1回の同期会の開催、②年2回の同窓会研修会への参加、③同友会の講演会や研修会への参加と学ぶ気風を職場に定着させる運動に参加、を訴えて励ました。^(注39)

西谷博明事務局長も、講評に続いて「同友会大学のように、体系的、大局的、科学的に絶え

ず学び続け、正義と真理に謙虚でありたいと願い努力してきた……この伝統を受け継ぎ、豊かにし、激動の中から、人間が人間であることを心から喜び合える新しい歴史をつくる主体者としての役割をまっとうしましょう。」と祝意と激励を添えた。^(註40)

卒業式での学長式辞から来賓祝辞、激励には、期せずして、人間性を高めるべく、目当て・目的・目標を持って、今後とも、共に学び共に育つ努力が述べられた。筆者は、同友会大学の第Ⅵ単元の講義の中で、人間が生きる原動力になるものとして、「見通し」（目当て・目的・目標）を持つことの重要性を語り、時間的に、①近い、②中間の、③遠い見通し、空間的に、④個人的、⑤集団的、⑥社会的見通し、の6つの見通しを持つことを提起してきた。

最後に、卒業生代表の「答辞」を、藤田和也氏（写真廃液処理工業(株)部長）が朗読した。ソ

資料6

答 辞

本日、ここに私達は、同友会大学第22期生として、晴れて卒業式を迎えることが出来ました。

7月8日の開校以来、初夏から晩秋までの4カ月の間に、ソ連の政変や湾岸戦争後のPKO問題、また、証券取引問題、そして海部政権の交代等、まさに激動の年の後半として数々の事柄に接して参りました。このような世の中の動きも講義を受けると共に、リアルタイムの臨場感というものが、より強烈に、より身近なものとして感じる事が出来るようになりました。

特に、中小企業というものが、確実に新しい時代に入っているという状況を、今、実感することが出来ます。中小企業が日本経済、そして世界経済のイノベーターという位置付けは揺るぎないものであると確信いたします。

しかし、時代の担い手であるということは、同時に要求される内容も厳しく、変化の大きなものでありましょう。企業も人も変動に受身の姿勢ではなく、積極的に取り組む姿勢を持たなければ、益々生き残りにくくなることを私達は学びました。

このような中で今、本大学を巣立つにあたり、私達は今後「何を成すべきか」という課題に対し、真剣に取り組む決意と目標を持つことが出来ました。本質を見抜く眼と発想の転換、そして、知り合えた仲間同士の連帯を武器にして、先人に負けないイノベーターになれるよう、共に学び共に育って行きたいと思っております。

最後に、ご臨席の皆様のご心温まるご祝辞と励まし、そして熱意ある講義を通して、数多くの問題提起とメッセージを下された諸先生方、経営者の方々、同友会事務局の皆様、そして理解ある応援をして戴いた同僚の皆様にご心から感謝を申し上げますと共に、今後もより一層のご指導、ご鞭撻をお願いして、卒業生代表の答辞といたします。

1991年11月11日

北海道中小企業家同友会
同友会大学第22期生代表
写真廃液処理工業(株)
部長 藤田和也

出典：藤田和也「答辞」、細川修責任編集『同友会大学第22期生記録集“知識を知恵に”』、北海道中小企業家同友会社員教育委員会、1992年1月刊、62頁。

連の政変、湾岸戦争、PKO問題、証券取引問題、海部政権の交代など激動の年、「今、本大学を巣立つにあたり、私達は今後『何を成すべきか』という課題に対し、真剣に取り組む決意と目標を持つことが出来ました。本質を見抜く眼と発想の転換、そして、知り合えた仲間同士の連帯を武器にして、先人に負けないイノベーターになれるよう、共に学び共に育って行きたいと思っております。」代表にふさわしい力強い答辞であった。^(注41)

おわりに

(1) 第21期同友会大学卒業生の受講の感想

筆者は、「共育」の概念を同友会大学の活動と関連付けて分析し、次のような「共育」構造を仮設した。1つは、「直接的共育活動」と名付ける同友会大学内部での共育活動である。これには、第1に、講師と受講生との間の共育活動で、圧倒的には講師が教える活動であるが、受講生から講師が学ぶ活動もある。第2は、受講生同士の相互共育活動であり、授業中のみならず授業外での相互活動もある。第3は、学長、社員教育委員会、代表理事、事務局と講師や受講生相互の共育活動である。2つは、「間接的共育活動」と名付ける同友会大学の外部での共育活動である。これには、第4に、受講生を送り出している企業での共育活動があり、第5は、受講生の家庭での共育活動であり、第6に、卒業後、全員が参加する同窓会や地域での共育活動がある。^(注42)

まずは、第21期同友会大学を受講して学んだこととして、竹田幸盛氏（あけぼの住宅設備(株)主任）は、「今回、同友会大学生として思った事は『人間性』の大切さを深く感じとることができました。一人ではいまの企業では生きていけないこと、相手の心を知る事も大切だと思います。」と、人間性と仲間の重要性や相手を知る事の大切さを学んだとしている。山内進氏（(株)北海道フキ）は、「途中は仕事との両立が疑問に思い何度かやめてしまおうと思った程でした。……しかし、何度か、一生かかっても聞かざる事のできない講座に出合う事が出来たのも事実でした。今思うと会社には多大な負担をかけたものの通い続けた満足感でいっぱいです。」内海善文氏（内海自動車工業(株)代表取締役）は、「この四カ月はレポートに苦しめられた毎日でした。……でも、こういう苦勞も学生時代以来で、久しぶりにいい意味で自分の刺激になったように思います。」^(注43) 受講生同士の支えで講座を継続した人たちもいた。大黒俊昭氏（(株)アーキビジョン21常務）は、「正直な気持ちをそのまま話したら、皆さんが真剣にうけとめてくれたことにうれしくなりました。ほんとうに同友会の言っている自主・民主・連帯とは、これなんだと思います。自分の思っている事を素直に出す、そうすると相手も心を開いてくれる、皆んなで協力」することの重要さを示唆している。

課題レポートの締め切りなどで苦しくなる中盤を、職場の上司や家庭の支えや皆勤賞の目標で乗り切った受講生もいた。栗田環通氏（シオン・樹脂工業(株)主任）は、「なお一層がんばろうと思った理由は、最初に目標をたてた皆勤賞をとり無事卒業しようと誓ったことと、職場の

上司に『今まで過去に決意表明をした人に脱落者(?)はいないんだよ』と言われたことでした。参加して本当によかったと思っています。」菅原美智子氏(菅原建築デザイン事務所)は、「しっかり勉強しよう」「聞いた話を主人にも聞かせよう」「カイキン賞とろう」「レポートもおくれないでさそう」と決意するが、「なかなか実行がともなわなかった……何も言う事は無い。ただ学ぶ事に努力あるのみ。」受講の大変さを小野政幸氏(白石製作所^(株))は、「ヘトヘトになりながら第一ビルに足を運びウトウトしながら授業を受けてヨロヨロしながら家に帰る……同友会大学に学ぶには知力と体力が必要であると思いました。」米倉清隆氏(ダイヤ冷暖工業^(株)次長)は、「腕が、手が、指が、頭が、重い、痛い。」と書き出し、「いろいろありましたが大変良い経験になりました。」という。^(注44)

(2) 第22期同友会大学卒業生の受講の感想

受講しての学びについて、菅原ひろみ氏(株うやまビューティサロン店長)は「一つ一つの單元ごとに視野が広くなり、四カ月の間に一回りも二回りも大きくなれた気がします。」垣原広幸氏(株サンコー主任)は、受講中に中古マンションを購入したが、「私はふと同友会大学での向井先生の講義を思い出し、これから購入しようとしている物件に、前所有者の抵当権などが無いことを確認してみた。」幸い抹消済みであったが、司法書士の方から「ずいぶん詳しいですね」と言われたとのこと。黒川朝子氏(株フォトテクノ北海道)は、「同友会大学に通う様になって、新聞とかニュースがとっても興味深く感じられ様になりました。新聞はとくに念入りに読む様になりました。」と言う。高野康夫氏(マツダ^(株)課長)は、「同友会大学で私が学んだことは、理想を現実に反映させる、その方法を知ること、……学びが、絵空事のように感じた理想を、現実に生かす知識に変えてくれるのだと思う。」と、人生で応用可能な方法を得ている。聴講生として受講した青山信一氏(株りんゆう観光課長)は、「講義内容については、企業における幹部が当然身につけておかなければならない広い知識と教養を高める内容の講義が多かったように思います。」と、同友会大学が目的としている人間性を豊かにするという主目的をしっかりと把握している。

斎藤和徳氏(有リビングサプライ課長)は、「とにかく年齢から来るおっくうさを吹き飛ばしてくれる程楽しい講座の数々でした。でも只一つ残念なのは、人間と教育の中に文化(教育も広い意味では文化なのでしょうが)芸術の講義が無かったことです。人間が人間らしく生きる為には衣食住と文化・芸術が大切なことだと私には思えるからです。」文化・芸術の人間にとっての重要性はまさにそのとおりで、斎藤氏のこの提言は、コロナ禍の生活の今日、一層共感を持ちうるものである。米田貢氏(株サンコー主任)は、「人間と教育の中の田中彰先生の講義の『激動の時代を生きた人間群像～明治維新を担った人々～』この講義の内容に、とっても興味をもち、『岩倉使節団』について自分なりに、調査してみようと思いたくさんの本を買って今読みふけています。これを機会に、明治維新の人間像をもっと深く研究しようと思います。」これこそ自主的学びを呼び起こした講義と言える。^(注45)

これまでの同友会大学で、多く語られてきた受講生同士の共育活動については、今回は比較的少なく、笠原英志氏（㈱ユタカ商会チーフバイヤー）が、「経済活動は常に世界が一つであるという事です。それと異業種の方々との交流も、非常に大切な事だと認識しました。」と、学んだ二つのうちの一つに異業種交流を挙げている。会社の上司や仲間、部下からの支援について、大泉宗一氏（共栄エンジンニヤリング㈱課長）は、無遅刻、無欠席で終了できたのは、「忙しいさ中、社員が気持ち良く『いってらっしゃい』と送りだしてくれたことによって元気づけられ、ここまで続けてこれたと思っている。先生方も、『学生』が疲労していることを十分理解していらっしゃるようで、楽しい工夫をこらした授業をしていただいたことに感謝します。」垣原広幸氏（㈱サンコー主任）は、上司と東京、横浜へ3日間の出張へ出て、3日目が授業で出席をあきらめていたが、上司が「お前は、明日大学があるのだから先に帰れ」と言ってくれ、おかげで、皆勤賞を受賞できたと感謝している。

留萌市からの井原慶児氏（井原水産㈱社長）は、「毎週月曜金曜と早退するために負担のなかった会社とスタッフに感謝したい。真の協力なくしては、これほど会社を開けることができなかった。同友会大学で学んだことを社員に教え、学ぶ事の大切さ面白さ引き継がせることによって会社の将来が変わるだろうと実感している。」藤田和也氏（写真廃液処理工業㈱部長）は、8月23日の授業は、上京のためあきらめていたが、社長に話すと「何と会合の日程を関係者に働きかけ、前日に繰り上げるという予期せぬ事態となった。これには流石経営者の並々ならぬ熱意を感じ、半端な気持ちでは受講できないぞ」と肝に銘じたという。傳法淳氏（北海道紙工業材料㈱課長）は、「知的好奇心に火がついてしまい、……仕事上の大過もなく、無事に卒業。支援してくれた同僚、特に部下の皆には深く感謝します。ありがとう。『人間死ぬまで勉強だ』。亡き父の言葉が思い出される秋の夜長。」

山田利晴氏（ヤマハミュージックストアエルム課長）は、同友会大学にかかわるあらゆる人に感謝の意を表明している。講師には、「愛情のこもった講義には、最近になく感動し、学ぶ事の大切さを学び」、「この四カ月、仲間と学んだ経験を活かし実践していく様努力」を誓い、「大学へ送っていただいた社長、上司、同僚のみな様に感謝し」、さらに駐車場のみな様の励ましにも謝意を示した。そして、「妻へ……この四カ月間、テレビもニュース中心になり好きな番組を見られなくてすみません。又、政治、経済の話題が多くなり討論して、寝不足になったようで？いろいろと協力ありがとう。」と結んでいる

受講生感想の最後を飾るにふさわしいのは、雨下幸彦氏（㈱興福産業贈答館店長）の、『「今日も大学ですか、週二回夜遅くまで大変ですネ。』『ハイいってきます。これも仕事ですから。』それが九月中頃になると『学ぶ喜びをあなたにも教えてあげたい。』十月には『ぜひ君も行きなさい。社長に推せんしておきます』人間の意識の変化は恐ろしい。』^(註46)

(3) まとめ

第1の講師と受講生の共育活動については、ほとんどが、講師からの受講生の学びであっ

た。その内容が、課題レポートや卒業論文に反映されただけでなく、第21期も第22期も受講生の感想に、とりわけ、第22期生の感想に表れていた。

第2は、受講生同士の相互共育活動は、今回はあまり多くの事例が見られなかった。事例は2.3にとどまった。

第3は、学長、社員教育委員会、代表理事、事務局と講師や受講生相互の共育活動は、前者からの指導は、開校式や卒業式で従前どおり多くみられたが、受講生からはほとんどない。ただ、斎藤和徳氏が、カリキュラムへ文化・芸術の講義を提案したことは重要である。

第4に、受講生を送り出している企業での共育活動は、第19期や第20期ではほとんど見られなかったが、特に、第22期での経営者の配慮や同僚への感謝は非常に多かった。同僚の同友会大学受講を社長へ推薦の事例も見られた。ただし、以前、あった、企業内での翌日の社長への報告や朝礼などでの受講生による同僚への共育活動までは至らなかった。

第5は、受講生の家庭での共育活動であるが、山田利晴氏の感想の中で、妻との討論について述べられているのが貴重である。子どもたちとの相互影響については語られていない。

第6に、卒業後、全員が参加する同窓会や地域での共育活動であるが、岡村同窓会長からの積極的な提言は毎回あった。同窓会世話人が第21期で5名（大槻修滋氏、恩田勉氏、斎藤英司氏、竹田幸盛氏、山崎武氏）、第22期は4名（阿部実範氏、斎藤和徳氏、傳法淳氏、吉崎仁氏）を選出し、共に学び共に育つ中心的グループが生まれ、未来への展望が開けた。

なお、講師と受講生との共育で、受講生からの講師の学びについて、昨年、2020年11月12日（木）の第68期同友会大学、単元VI、第29講を、筆者が担当した際、対面とオンラインとの併用授業の終了後に提出された「質問・感想」に、筆者の説明について1点、疑問が出され、筆者がその分野の専門家に聞き、筆者の説明が一面的であったことが分かった。そこで、感謝をこめて質問の受講生に知らせるとともに、事務局を通じ全受講生にも知らせたが、まさに、「共育」を実感するとともに、講師と受講生との共育構造にも確信を持った。

注

(注1) 米国のジョーンズ・ホプキンス大学と日本の集計による。『朝日新聞』、2020年8月1日、朝刊、及び2020年12月9日、朝刊。

(注2) 中同協『中小企業家しんぶん』、2020年9月15日号、1面。

(注3) 中同協編『第52回中小企業家同友会定時総会 ONLINE、2020年7月14日』、『中同協』No.105)、26頁。筆者は、第68期同友会大学の第29講でSDGsを説明したさいに、SDGsの制定経緯や本質と実際、特に企業で始まっている取り組みを理解しうるものとして、蟹江憲史『SDGs(持続可能な開発目標)』、中公新書(920円+税)、と中石和良『サーキュラー・エコノミー～企業がやるべきSDGs実践の書～』、ポプラ新書(860円+税)を推薦した。(株)北翔は、『朝日新聞』デジタル版、2019年12月6日、「未来へのものさし、#SDGs北海道」でも取り上げられた。(株)りんゆう観光については、中上雅之編集責任『北海道同友 第69号』、北海道中小企業家同友会、2021年1月1日発行、46-50頁。下川町については蟹江憲史著前掲、177-180参照。

- (注4) 栗田環通「決意表明」, 細川修責任編集『同友会大学第21期生記録集“豊かな人間をめざして”』, 北海道中小企業家同友会社員教育委員会, 1991年7月刊, 9頁。
- (注5) 細川修責任編集, 前掲同, 4-5頁。
- (注6) 西谷博明「二十一世紀を担うセンスと知性を」, 細川修責任編集, 前掲同, 2頁。
- (注7) 細川修責任編集, 前掲同, 3頁。
- (注8) 菅原美智子「日本の経済と中小企業」, 前掲同, 15-16頁。実際, 「人手不足」について, 『中小企業家しんぶん』, 第453号(付録), 北海道版, 第18号, 1991年1月25日, の1面トップ記事「求人難の中で真価を發揮した同友会の共同求人活動」で「かつてない求人難にみまわれた九十年」であるとして, 同友会の共同求人, 共同企業説明会を札幌で3回開催し, 5,119名の総参加者があった事を大きく報道している。北海道中小企業家同友会『中小企業家しんぶん』, 第453号(付録), 北海道版, 第18号, 1991年1月25日, 1面。それでも, 充足率は, 男子57.8%, 女子80.4%でかなり不足している。同『中小企業家しんぶん』, 第456号(付録), 1991年2月25日, 4面。
- (注9) 後藤功也「近代的な下水道施設」, 中村全「湾岸戦争がもたらすもの」, 細川修責任編集, 前掲同, 14-18頁。
- (注10) 菅原泰夫(ハマシステム販売(株)課長)「かすかな『光』を求めて」, 鴫田隆義(株)エース部長「北海道開拓の歩み」, 前掲同, 21-22頁。
- (注11) 倉本仁司「民主主義運動の伝統」, 細川修責任編集, 前掲同, 23頁。
- (注12) 金谷唯志「北海道の開拓とロシア」, 前掲同, 26-27頁。
- (注13) 大泉明彦「わが国の民主主義の成熟度」, 前掲同, 35頁。
- (注14) 石井宏和「日本国憲法と人権」, 前掲同, 36頁。
- (注15) 田村成之「過去の過ちの反省のうえに立って」, 前掲同, 40頁。
- (注16) 山崎武「真に人間のための科学技術を」, 前掲同, 48頁。
- (注17) 佐藤正美「オゾン層の破壊と環境問題」, 前掲同, 55頁。
- (注18) 稲垣英敏「中小企業と労働時間短縮」, 前掲同, 59頁。
- (注19) 松原恵二「中小企業の可能性」, 前掲同, 61頁。
- (注20) 西村信「課題意識を持ち続けよう」, 前掲同, 1頁。
- (注21) 千葉一「苦労の後にチャンスがくる」, 森泉「知的関心の出発点として」, 竹田正直「私が贈る二つの言葉」, 岡村敏之「時代の要請に応える力をつけよう」, 前掲, 10-11頁。
- (注22) 西谷博明「21世紀を担うセンスと知性」, 前掲同, 2頁。
- (注23) 大槻修滋「答辞」, 前掲同, 62頁。
- (注24) 西村信「社員が育つ土壌づくりを大切にしよう」, 岡村敏之「社員教育で問われる経営者の姿勢」, 宇山照悦「幹部教育のポイントは何か」, 柏崎俊雄「新入社員教育のあり方」, 中同協『中小企業家しんぶん』, 459号, 北海道版, 20号, 1991年3月25日, 1面。
- (注25) 中同協『中小企業家しんぶん』, 468号, 同版, 23号, 1991年6月25日, 1面。
- (注26) 笠原英志「決意表明」, 細川修責任編集『同友会大学第22期生記録集“知識を知恵に”』, 北海道中小企業家同友会社員教育委員会, 1992年1月刊, 9頁。
- (注27) 細川修責任編集, 前掲同, 4-5頁。
- (注28) 西谷博明「真理に謙虚な人間として」, 前掲同, 2頁。なお, 巻末の卒業生一覧には, 42名の名簿があり, 「業務の関係で, 21期の卒論が期限までに間に合わず, 第22期科学技術論から再受講し, 21期生として卒業が認められえた」と別記されている。あと1名については, 聴講生1名で, 卒業生名簿の最後にその旨特記されている。前掲同, 63-68頁。
- (注29) 細川修責任編集『同友会大学第22期生記録集“知識を知恵に”』, 前掲, 2頁。

- (注 30) 前掲同, 12-20 頁。
- (注 31) 井原慶児「北海道こそ、最も人間らしい暮らしのステージ」, 高田正雄「北海道開発の新たな方向」, 前掲同, 21-24 頁。
- (注 32) 鈴木良一「日本国憲法の基本理念を現代に生かす道」, 前掲同, 41-42 頁。
- (注 33) 山田利晴「科学技術を地球的課題解決のために」, 前掲同, 47 頁。
- (注 34) 湯浅健生「現代に生きる人間としてどう生きるか」, 前掲同, 56-57 頁。
- (注 35) 西村信「二つの問いかけを持ちつづけて」, 前掲同, 1 頁。
- (注 36) 関口功四郎「しっかりとした目標を」, 前掲同, 10 頁。
- (注 37) 方波見雅夫「張りのある生き方, 学び方」, 前掲同, 11 頁。
- (注 38) 竹田正直「人格の完成に限界はない」, 前掲同, 10 頁。
- (注 39) 岡村敏之「同窓会で学び合おう」, 前掲同, 11 頁。
- (注 40) 西谷博明「真理に謙虚な人間として」, 前掲同, 2 頁。
- (注 41) 藤田和也「答辞」, 前掲同, 62 頁。
- (注 42) 竹田正直「集団主義教育の立場と今日的観点」, 『ソビエト教育科学』第 23 号, 1964 年 12 月 25 日刊, 128~133 頁。竹田正直「北海道における中小企業家同友会の教育 (10)」, 北海学園大学開発研究所『開発論集』, 第 104 号, 2019 年 9 月, 17~37 頁。
- (注 43) 竹田幸盛「『人間性』の大切さ」, 細川修責任編集『同友会大学第 21 期生記録集“豊かな人間をめざして”」, 前掲同, 17 頁, 山内進「通いつけた満足感」, 28 頁, なお, 28 頁の感想文は「山口進」となっているが, 卒業生名簿の他の 3 カ所は「山内進」となっているので, 「山内進」が正しいと考えた。内海善文「レポートは“気合い”が肝心?」, 50 頁。
- (注 44) 大黒俊昭「『自主・民主・連帯』の精神で学び続けたい」, 同, 29 頁。栗田環通「ありがたきかな (?) 我が上司」, 34 頁。菅原美智子「主人にも聞かせたかった」, 14 頁。小野政幸「知力と体力の続くかぎり」, 30 頁。米倉清隆「あれ? どこかで読んだ文章が」36 頁。
- (注 45) 菅原ひろみ「現代を生きるための大学」, 細川修責任編集『同友会大学第 22 期生記録集“知識を知恵に”」, 前掲同, 14 頁。垣原広幸「上司の愛情に支えられて」, 20 頁, 黒川朝子「新聞が大好きに」, 23 頁。高野康夫「理想を現実生かす為に学ぶ」, 41 頁。青山信一「聴講生として受講して」, 53 頁。青山氏は, 学んだ点を詳述。斎藤和徳「文化・芸術の講義も加えては」, 54 頁。米田貢「『岩倉使節団』の研究に取り組む」, 38 頁。
- (注 46) 笠原英志「常に世界の動きに注目しなくては」, 前掲同, 33 頁。大泉宗一「仲間に支えられて」, 18 頁。垣原広幸「上司の愛情に支えられて」, 20 頁。井原慶児「勉強が面白くてたまらない」, 22 頁。藤田和也「経営者の熱意」, 46 頁。傳法淳「知的好奇心に火が付いた」, 61 頁。山田利晴「学ぶことの大切さを知る」, 58 頁。雨下幸彦「学ぶ喜びを知る」, 24 頁。